

## 医療連携勉強会を開催しました

令和3年11月20日(土)「医療連携勉強会」をオンライン開催いたしました。

本来この時期は、地域の先生方に直接当院までお越しいただき、意見交換等交流を図る「地域医療連携懇話会」を毎年開催しておりました。しかしながら昨今のコロナ禍の影響を鑑み、昨年度は開催中止、今年度も集合形式での開催を見合わせるようになりました。その代替というわけではありませんが、情報提供を積極的に行うことで少しでも地域医療の先生方及び医療従事者の皆様に貢献できればとの思いから、今回のWeb勉強会開催を企画した次第です。Web開催ということもあり伊丹市・尼崎市の先生方に加え、遠方の施設の先生方からもお申込みいただきました。

講演は「神経内視鏡を用いた低侵襲性脳手術」「コロナとサイトカインストーム」の2題をご紹介させていただきました。会の最後は伊丹市医師会・吉村会長にご挨拶を賜り閉会となりました。

Face to Faceでの開催が再開される日が一刻も早く訪れるようお願いしつつ、Webによる情報提供等も積極的に発信していきたいと思っております。



## 登録医の募集について

登録医は、紹介患者さまがご入院の際に「開放型病床」をご利用のうえ共同診療が可能です。

そのほかには、

- ・勉強会・講演会等のお知らせ
- ・患者用広報誌で医院のご紹介
- ・図書室など院内設備の利用
- ・当院HP及び院内フロアで医院のご紹介などの利点がございます。

登録医への申請をご希望の場合は、

当院地域医療係 (TEL072-781-3712内線540) までご連絡ください。



## 近中メールマガジンにお申込ください

当院では、勉強会・研修会・時間外救急当番医等の情報を近中メールマガジンにて随時メール配信しております。登録をご希望の場合は ①所属 ②氏名 を記載のうえ、下記アドレスまでご連絡ください。

✉ 電子メール：kichmail@kich.itami.hyogo.jp

## 年頭あいさつ



新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

我が国は一昨年から新型コロナウイルスの波状流行に翻弄されてきました。第5波による感染爆発、医療のひっ迫化のなかでは、東京オリンピックも無観客下での開催を余儀なくされました。しかしご存知のように、その後感染は急速に収束に向かいました。当院でも25床の陽性患者用ベッドも満床状態から10月末には数名の入院患者数に急激に減少しました。ワクチン接種率の増加はあるにせよ、専門家の解説を聞いてもこのように急速な減少を明確に説明できる理由は明らかではありません。第6波の到来もあるかもしれませんが、それに備えての準備も指示されています。

ところで、感染が収束に向かうことで社会活動における制限も解除されつつありますが、新型コロナウイルスの流行前の生活を目指すのが良いのかどうか、熟考が必要です。一つには、次の感染流行を懸念する必要があります。欧米の状況を見れば、ワクチン接種が進んでいても制限解除により再度の流行が生じている現実があります。いま一つには、新型コロナウイルスパンデミックは、様々な分野で変革を行う良い機会と考えることです。わが国で遅れていたデジタル化の推進、リモートワークの拡大な

どの良い機会です。リモートワークが広がれば、付随的に人口都会集中に伴う諸問題も軽減されていくのかもしれませんが。新型コロナウイルスパンデミック以外にも、気候変動に伴って生じる各種大規模災害の多発をきっかけに、地球温暖化防止も急務とされています。太陽光発電や風力発電などのクリーンエネルギーの推進、温室効果ガス排出抑制に向けての技術革新、燃料電池車や電気自動車普及の加速化など各種の施策が世界中でなされることで、達成時期に議論があるにせよ問題解決に向けての取り組みが進みつつあります。

パンデミック、大規模災害のたびに暗く絶望的な気持ちに支配されますが、試練を乗り越える人類の英知が発揮されることにより希望の光が見えてきます。Pascalの言葉「人間は一本の葦にすぎない。自然の中でも一番弱いものだ。だが、人間は考える葦である。」を思い出し、人間の自然の中における存在としての弱さと、思考する存在としての偉大さをあらためて感じる次第です。日々の診療面でも各種マニュアルが作成されており、パソコンでのコピーペーストや優秀な漢字変換、検索機能のおかげで、ともすればあまり深く考えることなく時間が流れていく傾向があります。多忙な毎日の中でも日々の情性に流されて思考停止に陥ることなく、常に考える葦であり続けたいところです。

新年を迎え職員一同が気持ちを新たに、地域の先生方、患者さん、皆様のお役に立てるように、「常に考えることを忘れずに」より一層の努力をしてまいります。本年も公立学校共済組合近畿中央病院をよろしく願います。

## 近畿中央病院と市立伊丹病院との統合再編について

### 令和7年度、近畿中央病院は市立伊丹病院と統合します。

近畿中央病院から北へ直線距離で約2.3kmにある現在の市立伊丹病院の敷地内に、基幹病院と健康管理施設からなる統合新病院が誕生します。

統合新病院は、「地域に信頼される安全で安心な医療の提供と健康づくりの推進」「職域と地域に応える健康づくり」という二つの基本理念を実現する、高度急性期に対応した病院となります。



建物概要	病床数
・西棟 地上8階、地下1階	602床
・東棟 地上4階	集中治療病床 54床
・連絡棟 地上3階	一般病床 528床
・駐車場 (立体)約180台、(平面)約370台	緩和ケア病床 20床

### 新しい健康管理施設

東棟内に公立学校共済組合が運営する新たな健康管理施設「公立学校共済組合からだところの健康センター(仮称)」を設立し、公立学校共済組合員や伊丹市民の皆さまの身体と心の健康増進・疾病予防のため、人間ドックなどの健康管理事業とメンタルヘルス相談などのメンタルヘルス事業を実施します。



### 近畿中央病院の跡地活用について



### 地域医療機関の先生方へ

当院は市立伊丹病院と統合することになりますが、統合まで(早くても令和7年9月まで)は、近畿中央病院としてこれまでと変わりなく、患者さまに高度で安心・安全な診療を提供し続けます。また、地域の医療機関の先生方や各市町の救急隊とはこれまで以上に連携を強化してまいりますので、引き続き安心してご利用ください。

## ヘルニア外来 ～金曜日午前開設～

外科医長 長岡 慧

鼠径ヘルニアとは、専門的には「腹膜に覆われた臓器がヘルニア門をとおして腹膜側から鼠径管内に脱出している病態」とされます。

鼠径ヘルニアは、手術以外に有効な治療法はなく、ヘルニアが自然治癒することはありません。脱出した腸管や脂肪が腹腔内に戻らず、血流が悪化した状態を嵌頓といい、鼠径ヘルニア全体の約5%に起こるといわれています。腸が嵌頓・壊死した場合は緊急手術が必要となります。緊急手術になる可能性を考慮すると、待機・予防的に手術を受けていただく方が安全であるといわれています。

近畿中央病院の外科では「腹膜外腔アプローチ 単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(SILS-TEP)」を積極的に行っています。両側にできた鼠径ヘルニアに対しても臍部1ヶ所の手術創から同時に治療でき、術後の整容面にも優れた手術法です。高度な技術を必要とするため施行できる施設は限られています。

また当院では最新の腹腔鏡システムVISERA ELITE IIビデオシステムセンター(OTV-S300)を導入、加えて4K-3Dモニターを導入したことで、操作性に加えて視認性が大幅に向上し、細かな血管までよりクリアな映像のもとで、手術が可能となりました。SILS-TEP法を行う理想的な環境を整えています。



2.5cmほどの切開部よりカメラや鉗子を入れます

鼠径ヘルニアの手術では、2泊3日の短期入院を基本としています。日常生活への復帰は術翌日から可能で、事務仕事などであれば、術翌日から復帰可能です。時間に余裕のない方も、無理なくスケジュールに組み込んでいただけるよう、入院期間・手術日程については、可能な限り調整させていただきます。なお、退院後の通院は、2週間前後と3か月後の2回を標準としています。

鼠径ヘルニアの初期症状は、痛みや違和感ですが、残念ながらこの段階での受診をためらう方がいらっしゃいます。当院では、毎週金曜日午前にヘルニア外来を開設しています。鼠径ヘルニアでお困りの患者さまがおられましたら、早期治療のメリットをご説明いただき、当院外科にご紹介いただければ幸いです。

### 新任医師を紹介します



整形外科医長 佐柳 潤一

令和3年10月から整形外科医長に就任いたしました佐柳潤一(さやなぎ じゅんいち)と申します。手外科・一般整形外科に関わる疾患を広く取り扱っております。もし、お困りの際はお気軽に、近畿中央病院整形外科までご相談いただけたら幸いです。



内科医員 葛 林 栞

令和3年10月より脳神経内科レジデントとして勤務しております葛 林栞(かつ りんじゅん)と申します。至らない点が多々あるかと存じますが、精一杯頑張りますので、どうぞご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



内科医員 武田 紗季

令和3年10月より内分泌内科レジデントとして勤務させていただいております。至らない点ばかりではありますが、地域の皆様のお役に立てるよう日々精進して参ります。よろしく申し上げます。

